

情報連絡員報告総括表(令和8年2月期)
富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食 料 品	醤油・味噌製造業	→	→	↗	→	↘	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> 国内産米の価格上昇により、大手は輸入米の使用にシフトしている。 ただ、できるだけ富山県産米を使用したいという企業が多く、販売価格を上げざるを得ない現状にあり、苦慮している。
	パン製造業	↘	→	↗	→	↘	↘	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> 販売価格の値上げは進んでいるものの、原材料価格や諸経費の上昇分には追いついていない。 残業食の提供を取りやめる取引先企業が増えている。 少子化により、給食用のパンの数が減少している。
	処理牛乳・乳飲料製造業	→	↘	↗	→	→	→	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。
織 維 工 業	ニット製造業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> 受注状況は減少傾向にある。特に衣料関連が悪化している。 人件費・エネルギーコストが上昇している。 価格転嫁については、発注先に理解を得ている。
	絹人織織物業	↘	↗	→	→	↘	↘	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> 化合繊維物業者と絹織物業者の状況は先月と変わらない。 原材料や資材の値上がりが続いているにもかかわらず、販売価格の値上げは困難な状況にある。 賃上げ政策が進められているが、賃金上昇の原資である企業収益を確保できるか危惧している。
	綿・スフ織物業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> 受注状況はほぼ横ばいだが、エネルギーコストの上昇により、大きく収益を圧迫している。 今後の世界情勢により、更に悪化する可能性がある。
木 材 ・ 木 製 品	一般製材業	↘	↗	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> 県内の新設住宅着工戸数は、前年同月比で暫く2桁の減少が続いていたが、12.6%の増加となっている。 新設住宅着工戸数の大幅な減少による木材需要の落ち込みは、木材産業関係事業者の経営環境を厳しくしている。特に、中小工務店の資金繰りの悪化が心配される。 ロシア材取扱木材関連事業者は、長引く円安傾向により輸入価格を抑えることが難しくなっている。円安の長期化で、国産材(スギ)への転換が進むことを懸念している。 プレカット工場については、住宅着工数の減少による稼働率の低下が続いているため、非住宅分野での受注に期待しているが、継続的な受注には繋がっていない。 木材価格は、素材・半製品・製品ともに大きな動きは見られず、低位安定になっている。
	その他の木製品製造業	↗	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
印刷業	印刷業	↓	→	↑	→	↓	↓	↓	→	↓	・官公需取引契約について、取引方法が年度末になっても決まっておらず、新年度に入る可能性がある。
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・原材料価格の上昇、人材確保難は続いている。 ・一般用医薬品の製品価格への転嫁は進んでいる。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・県全体の生コンクリート出荷数量は、前年同月比約118%と前年実績を2ヵ月ぶりに上回った。 ・4月からの県全体の累積出荷量は、ほぼ前年並みの実績である。
	コンクリート製品製造業	↓	→	↑	→	↓	→	↓	↓	↓	・特になし。
	骨材・石工品等製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・生コン業界、コンクリート二次製品業界、アスコン業界等、得意先と令和8年度骨材納入契約交渉を進めている。原材料や生産コスト増による値上げについては、比較的理解を得ている。 ・骨材需要は、堅調な状況が続いている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・生産量はやや回復したものの、建設機械及び工作機械部品など全般的に低調に推移している。
	銅・同合金鑄物製造業	↘	→	→	↘	↘	→	→	→	↘	・地金価格の高騰が長引いている。
	アルミニウム製品製造業	↘	→	↗	↗	→	→	↘	→	↘	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・自動車関係企業と取引が大きいところは、自動車の生産販売低迷の影響を受けて、受注が減少している。 ・全体的に社員の高齢化が進み、特に管理系統・事務系統の退職が目立っている。また、健康や家庭の事情(介護など)が理由で65歳以上の再雇用者の離職が増えている。中小企業では後任の採用が難しく、採用出来ても50代後半から60代前半がほとんどで、根本的な解決にはなっていない。 ・製造管理職の育成と若手の技術職の採用が課題である。
	めっき加工業	↗	→	→	→	↗	→	→	↘	→	・取引先からのめっき加工依頼が増加傾向にあり、売上の前年同月比は増加している。売上について下げ止まりが見られることから、収益状況も改善しつつある。
一般機器	金属工作機械製造業	↗	→	→	→	↗	→	→	→	→	・円安が輸出採算を押し上げていることから、受注状況は堅調である。しかし、引き続き部材コストが高騰しており、収益は好転しているものの大幅な増加までには至っていない。
	金属加工機械製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	非金属用金型製造業	↘	↘	→	→	↘	→	↘	↘	↘	・受注量が安定していない。特に車関連が伸びていない。 ・中東情勢の悪化により、エネルギー、材料等の高騰が懸念され、先行きが不透明な状況である。
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	↗	→	↗	→	↗	→	↗	→	↗	・産業機器向け電子部品の受注の回復傾向が継続している。 ・自動車向けは、新製品については計画通りに推移している。 ・新製品開発の引き合いが増加しているが、対応するための人員数に懸念がある。
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・工芸品の売上にはまだ繋がっていないが、観光施設への来客が増えており、春に向けて期待している。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	セメント卸売業	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・2月は比較的天候に恵まれ工事が進捗したため、前年同月比109.8%と増加している。4月～2月の売上累計については、前年比103.3%とプラスを維持している。 ・この先の売上は山間部の残雪次第だが、多少伸びてくると予想しており、今後、昨年と同程度の売上で推移すれば、前年比を約7,000袋オーバーで着地できると期待している。
	非鉄金属製品卸売業	↘	↗	↗	↘	↘	↘		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・1月は仏具をはじめほとんどの分野で受注があまりなく、2月も余波があったようである。 ・依然として続く原材料、エネルギー価格の高騰をどこまで価格転嫁できるかが、喫緊の課題である。
小売業	鮮魚小売業	↘	→	↘	→	↘	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業	→	→	→	→	→	→		↘	→	<ul style="list-style-type: none"> ・雪の影響で売上は減少している。 ・仕入価格の上昇が収益を悪化させている。
	野菜・果実小売業	↘	→	→	→	↘	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・1月の富山卸売市場は、前年同月比で数量92%、単価100%、売上92%となっている。 ・組合員全体の売上については、前年同月比95%となっている。
	家庭用電気機器小売業	→	↗	→	→	→	→		→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
	ガソリンステーション	↘	→	↗	↘	↘	↘		↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制など、SSの経営環境は依然として厳しい。 ・物価高による利用者の節約志向が響き、ガソリン販売量の減少は続いている。引き続き、需要の回復感は弱い。 ・中東情勢の悪化を受けて、原油価格の大幅な高騰が予想される。
	スポーツ用品小売業	→	↘	↗	↘	↘	↘		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
ショッピングセンター	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 	

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→	→	・月の後半は、気温が上がり安定した天候となったことや、隣接百貨店のイベント効果によって、若者や家族連れが多く訪れている。 ・洋服等の春物商品の売れ行きが好調である。
	商店街	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
サービス業	情報サービス業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	クリーニング業	↓		↑	→	↓	↓		→	↓	・特になし。
	飲食業	→		↑	→	→	→		→	→	・特になし。
	建築設計業	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→	→	・2月の自動車新車新規登録・届出台数(登録車と軽自動車の合計)は、前年同月比で2ヵ月連続で減少している。 ・新車販売市場は、ユーザーの潜在需要は底堅く推移しているものの、実質賃金のマイナスは続き、また幅広い分野で値上げの動きが広がっていることから、楽観できない状況である。一方で、今春には新型車や特別仕様車が順次リリースされることや、2026年中の「環境性能割」廃止などが追い風となり、販売増を期待している。 ・自動車整備事業者は、各種自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えている。こうした課題に対応できない事業者は、自社の取扱い車種が加速度的に減少していく状況にある。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	↓		↓	↓	↓	↓		→	↓	・仕事量は先月と変わらず低い状態が続いている。 ・本来なら、昨年からの副資材や輸送費、労務費などの値上がり分を加工単価に転嫁していかなければならないが、仕事量が十分でないため、現在の単価を維持するのが精一杯である。 ・先月より鋼材の値上げが本格的に唱えられており、苦しい場面が続くと思われる。
	一般土木建築工事	→		→	→	→	→		→	→	・特になし。
	管工事業	→		→	→	→	→		↓	→	・新年度予算の債務負担行為による水道管の早着工事が発注され、仕事の閑散期での発注に会員は助かっている。 ・会員は、通常業務以外の除雪作業や消雪点検業務、宅内水道管の漏水修繕依頼の対応に追われている。 ・景況に変化はない。
	電気工事業	→		↑	→	→	→		→	→	・公共事業・民間設備投資は順調である。 ・蛍光灯の輸入・製造中止を控え、来年度はLED化工事計画が多く見込まれている。しかし、照明器具の入荷が予測できない状況であり、新築住宅にも影響が出てくる見込みである。
運輸業	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・軽油価格について、中東情勢の悪化による原油価格の高騰で、前月比20円/ℓ以上の高値が予想され、今後の収益状況に大きく影響するものと思われる。
	道路貨物運送	→		→	→	→	→		→	→	・物量は、前年同月比101.2%とほぼ横ばいである。